

# 上京

史蹟と文化

2003 VOL. 24



# 美を創る

金剛流能楽師

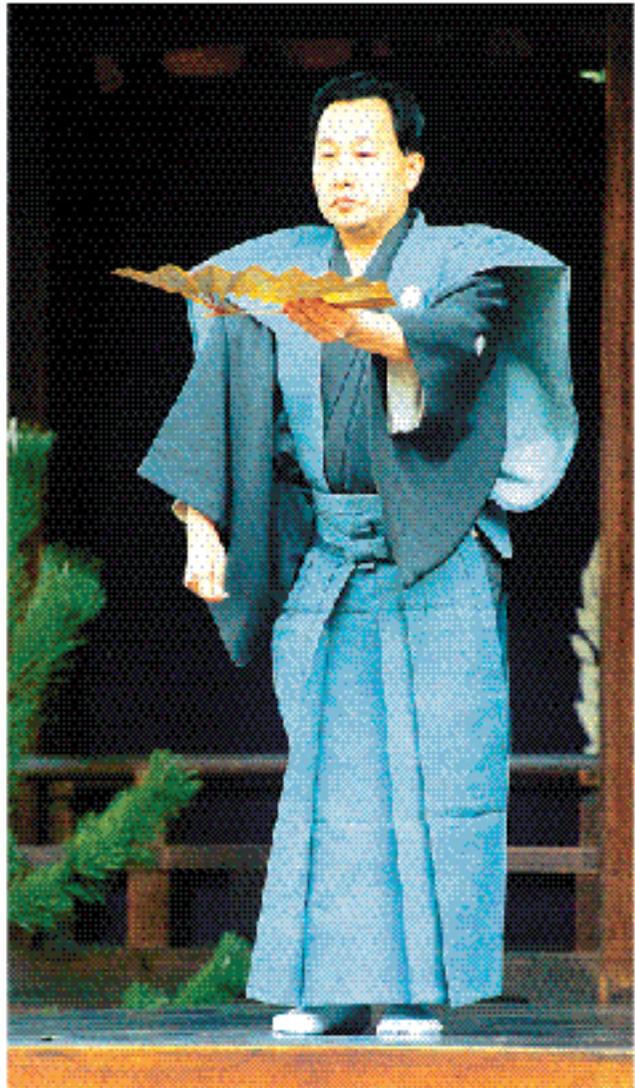
種田道雄

京都市上京区黒門通一乗上る

種田道一

京都市上京区大宮通元盤願寺下る





京都の能楽界では金剛・観世の二流派が大きな位置を占めており、多くの能楽師がそれぞれ社中を組織して全国的な活動がなされている。中でも種田家は上京区内に居を構え、四代にわたって金剛流の職分を勤める名家である。重要無形文化財「能楽」保持者の種田道雄・道一父子の両師に、金剛流の能の美についてのお話を伺った。

金剛流の演技は舞金剛といわれるように、舞の型が大きく華麗で、謡も自然体の発声法であるという。呂を利かず低い調子の金剛流は、干を重く見る観世流と大きく異なるところであつて、これらが金剛流の美だといえるのだろう。金剛流は法隆寺に奉仕した坂戸座を源流とし、室町時代初期には観世・宝生・金春の三流とともに大和猿楽四座に数えられ、唯一京都に宗家があり、現行曲は二百四曲ある。種田家は茶道の裏千家とのつながりが深く、三代にわたって初釜には毎座ごとに小鼓の曾和家と共に謡を催されている。能装束の製

作をする西陣とも深いつながりがある。舞台衣装として、織・繻・摺といった高度な技術で象徴的な図柄を作り上げるのも西陣ならではのことで、これも茶道とともに上京ならではの文化交流なのだと言られる。室町四条上るから烏丸中立売上るに移転して工事が進められていた金剛能楽堂は五月に完成し、いよいよ六月十八日にこけら落としが行われる。禁裏に出入りしていた金剛流としては、能楽の中心地

であつた上京の、しかも京都御所の近くにその本拠地ができ、二十六世家元の金剛永護師もこの地に腰を据え、永く金剛能楽堂が上京での芸術の繁栄に寄与することを願つておられるという。道雄師は昨年秋、京都市文化功労者として顕彰され、道一師も平成五年に京都市芸術新人賞をうけられ、新しい能楽堂の完成とともに、上京における新しい文化の発信地を自覚しておられる。

## 寺町通

寺町通は北端の上御霊前通から南へ五条通まで四・六キロ、平安京の東京極大路にあたります。小京都といわれる町の人にいわせると、京都の寺町は寺が少ないといわれます。小京都の寺町は京都のように長い道路ではなく、城下町の周辺に寺を集めたのです。

寺町通の前身は平安京の東京極大路であったといわれます。しかし、厳密にいうと、今の寺町通は東京極大路より東に外れています。東京極大路は幅十丈、平安京の東端を区切る大路でした。その位置は京都御苑の東の石垣の西側沿いになります。平安遷都当時の鴨川は湿地帯を流れる荒れ川で、川幅も広く網状に水を流すような自然河川でした。おそらくそのぎりぎりに平安京の東端を設定したのでしょう。中国の都城と異なり、平安京は周囲に羅城をめぐらさず、東京極大路の西側には邸宅の土塀があつたとしても、東側はそのまま河原に続いていたのでないでしょうか。

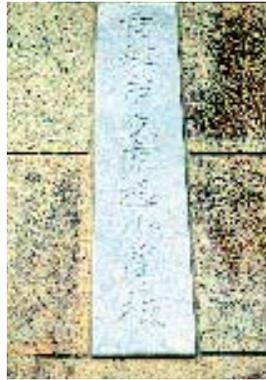
時代がさがるにつれ、防鴨河使という治水のための臨時の役所が置かれたりして、川幅も狭められ、東京極大路

### 「上京の史蹟シリーズ」

# 上京のたぐり跡

(その6)

より東へ市街地が広がって行きます。今の京都御苑から鴨川の間あたりです。さらに院政期になると、鴨川の東へも広がり、白川の流域に六勝寺という六つの寺院が建てられて開けてきます。一方、平安京の南西部（今の西京極・吉祥院辺り）は低湿地で人も住まなかつたようです。



寺町通の古称を残す

平安時代も末期になると、平安宮（大内裏）は廃墟同然となって廷臣の邸宅は左京からさらに鴨川の東へ広がります。やがて、天皇の住まう内裏も外祖父の家に置かれ、里内裏が成立します。その一つが南北朝時代に土御門内裏として固定し、京都御所の基盤となったのでした。そのために宮廷の儀

式の場合も土御門内裏で行われ、朝廷の政務もその長官の家で執行されるようになり、その官職も世襲されて行くのです。いわば在宅勤務です。土御門内裏の周囲には多くの公家屋敷が集住して公家町を構成し、東京極大路にも波及してきます。

## 寺町通の成立

この東京極大路に大きな変化を与えたのが応仁の乱であり、その復興のために市街地改造を実施したのが豊臣秀吉なのです。秀吉は織田信長の後を承けて皇居を造営し、その功により高位の官職を得て天下を掌握します。そこで三つの市街地改造を行うのです。まず鴨川の東岸と紙屋川の西岸、それを結ぶ北部と南部をつなぐ御土居を築き、水害から京都の町を守り、外敵を防ぐ方策としました。次は一町毎に道路が通る方形の町の真ん中に南北の通りを

開き、上京と下京の間をつなぐあたりを短冊型の街路としたのです。両替町・衣櫛・釜座などの通りがそれです。三つ目が東京極大路と北の安居院通に寺を集めたことです。安居院は今の寺之内通で北側にのみ寺があるのもそのためです。東京極大路は東側と鴨川の御土居の間に寺を集めました。これも東側にしか寺がない理由です。これによって寺町通という通称ができました。天正十五年（一五八七）頃、四百年余り前のことです。これがそのままであれば、北端から南端まで隙間なく社寺が連らなっていたことでしょう。寛永十四年（一六三七）の「洛中絵図」を見ますと、寺町通と御土居との間には百余りの社寺がぎっしり詰まっています。

この姿を変えたのは宝永の大火です。宝永五年（一七〇八）三月八日、油小路通姉小路下るの民家から出火、南西の強風にあおられて、今の上京区・中京区の大半、一万四千戸を焼き尽くしました。これにより公家町が拡張され、榎木町通と丸太町通の間にあつた町家が、川東の岡崎村へ移されます。今の新洞学区の地域です。この時、寺町通の寺のいくつかも川東へ移り、再移転する寺もあつて様相を変えます。今も町名にこれらの寺の名が残っています。

そこで丸太町から北の寺の跡には公家屋敷や幕府の役宅が置かれました。

次に変わったのは明治の近代化です。それは電車が走ったことです。明治二十八年（一八九五）、平安遷都千百年を記念する第四回内国勸業博覧会が岡崎村で開かれ、その輸送手段として京都電気鉄道株式会社（京電）が、伏見京橋の舟乗場から竹田街道・木屋町通・二条通を経て博覧会場まで開通させました。引き続き、その年の内に二条木屋町から寺町通・丸太町通・烏丸通・下立売通・東堀川通を経て堀川中立売まで延長されました。このために寺町通の丸太町から二条までは東側を流れていた中川を埋め立て、西側を拡張しました。この線は狭軌の複線で、道路の中央に架線を吊る電柱を立てたセクタポールでした。その後、丸太町から北へ、今出川を東へ、今の下鴨通の青竜町まで延長され、明治三十四年三月十一日から狭軌単線で運転されました。

## 鞍馬口から今出川まで

上京区内の寺町通は鞍馬口通を南へ入った天寧寺の南端から始まり、丸太町通に至る二・三キロ、道幅は八メー

トルです。この道を北から歩いてみましょう。鞍馬口通から少し南へ行くと天寧寺があります。ここは行政区では北区ですが、上京区と一体となっている地域です。天正年間に会津城下から移ってきたと伝えられています。山門を通して眺める比叡山は絶景で額縁門といえます。その南にはある西園寺はもと今の金閣寺のところに創建されましたが、再転して天正十八年に寺町へ移されました。境内にはよく手入れされた高さ一〇メートルほどのク口ガネモチがあり、上京区民誇りの木に選ばれています。ここから南三〇メートルほどの間は住宅地になっており、かつての寺の跡は藪や雑木林であったと

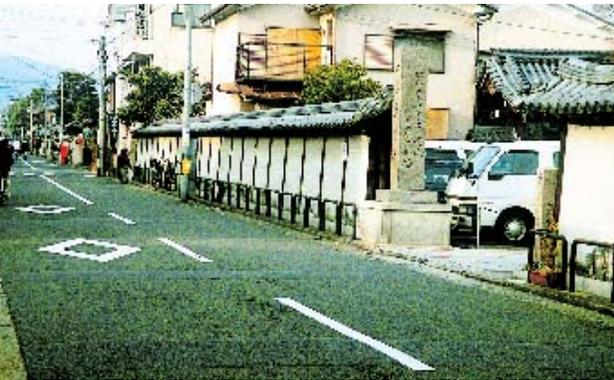
おもわれます。

鶴山町に入りますと、阿弥陀寺・十念寺・仏陀寺・本満寺と大きな寺が並んでいます。その中には塔頭を持つ寺もあつて往年の寺町の姿を今に伝えてくれているようです。もと上立売大宮にあつた阿弥陀寺は天正十五年に、織田信長らの骨灰を埋めた墓とともに、ここへ移されました。

その南の十念寺には寺と思えないような近代的な建物が目につきます。それもそれは平成五年に建築家としても知られる大阪の一心寺の高口恭行住職によつて建てられた本堂なのです。近代的な感覚による寺院建築として高く評価されています。



近代的な本堂の十念寺



白い築地塀がつづく本満寺辺り

次の仏陀寺も十念寺と同じ西山浄土宗の本山で、上京区内最大級といわれるソメイヨシノがあります。枝張一四・九メートル、高さ一〇・五メートル、桜の名所となっている境内でも特に大きく、上京区民誇りの木として春には見事な花を咲かせます。

これからの寺の裏は鴨川に近く、高い堤防が水害の苦難から守ってきたことを示しています。その間にある細長い住宅地は御土居の跡でした。

東側の鶴山町の名は明治になつてから新しく付けられたもので、その由来はわかりませんが、それまでは町名がなかったようです。西側は天寧寺前町・高德寺町・不動前町・観音寺前町・阿弥陀寺前町・十念寺前町・本満寺前町・立本寺前町など現在は移転してなくなっている寺も含めて門前町の名を残しています。これは西側には江戸時代を通して民家が軒を連ねていたことを示すものでしょう。西北から東南へ斜行していた寺町通は、鴨川の流路に沿つて南へ直進します。その少し南に二厄除縁結 幸神社 西半町」の石標が立ち、この丁字路を西へ行くと平安京の鬼門に猿田彦神を祀つた幸神社さいのかみやしろがあります。

ここは東側を表町、西側を立本寺前



幸神社の道標

町といえます。その名が示す通り、東側は立本寺のあったところです。宝永の大火後、内野と呼ばれた七本松通仁和寺街道上の現在地に移転しました。表町はその跡地で、その表門があったところとされ、立本寺表町を略したのです。

またこの付近には小さな川があり、今出川を東へ流れていて、このあたりを水流れといったと伝えていきます。

## 今出川が三広小路まで

寺町今出川の西北角の一角を大原町といえます。この東北角の歩道に大きな道標が立っています。今出川通でも紹介しましたように、ここは東西南北四方へ向かう大事な地点なのでした。北面には上御霊神社・上賀茂神社・鞍馬寺・大徳寺・今宮神社といった寺町通を北上することによって行き着ける目的地名が距離とともに示されています。

す。また南面は革堂・六角堂・六条（本願寺）・祇園・清水寺・三条大橋に至ることを知らせています。

寺町今出川の一部は出町に近い商業



さば街道の基点・柘形モールの歩道タイル



地として栄えたようで、それは道標の下部に彫られた十九人の名前からもわかります。これらの名前は近くにおられる方の御先祖がもしれません。大原口というのは出町を経て大原に至る街道の入口なのです。この道標は慶応四年（一八六八）四月に立てられた良質の白川石によるもので、京都はもとより、全国にも例を見ない優品として京都市の史跡（登録文化財）となっています。路傍の文化財として大切にしたいものです。

今出川通を越えると、東側が少し広がつています。これは単線の電車が行き違うための複線があったところです。ここから南も道幅は八メートルなのですが、狭軌とはいえ、よくも電車が走っていたものだと思わされます。

西側は真如堂前町・真如堂突抜町です。その名前が示す通り東側には真如堂（真正極楽寺）がありました。平安時代の正暦三年（九九二）、一条天皇の御願によって神楽岡（吉田山）に創建されました。その後、転々として一条新町西入に移り、今も元真如堂町の名を残しています。天正十五年、豊臣秀吉により二町四方の地を与えられ、この地に寺地を定めました。その後、元禄五年（一六九二）、火災により旧

地の神楽岡に戻り、今に至っています。真如堂突抜町というのは、真如堂の前に新たに通した突抜の道、つまり図子なのです。

この付近はすでに江戸時代から市街地化されていたと思われ、この南一帯は京都御所にかかわる屋敷がありましたが、今出川通の一筋南を石薬師通といいますが、この西端は京都御苑の石薬師御門に突き当たります。これは近くの柴中に安置されていた薬師如来の石仏が数々の奇端をあらわし石薬師堂となったといえます。その像も真如堂に移されました。

京都御苑の石垣沿いには梨木通があり、寺町通との間は公家屋敷でした。ここから南を染殿町といい、公家屋敷が集まっていました。東側は寺町通の名残りの寺院があり、本禅寺・清浄華院・廬山寺・遣迎院・中御霊社が境内を連ねていたのでした。



平安京の東北隅・本禅寺

大久保彦左衛門の墓がある本禅寺は法華宗陣門流の大本山、天文法華の乱に焼かれて西陣の桜井町で再興したあと、天正十九年に現在地に移ります。西側を南へ広小路の手前までを北之辺町といいます。北辺とは平安京の一条大路から南へ二町分の坊の名称です。その名が今に残っているのです。本禅寺の表門のところが一条大路を東へ延長したところに当たり、平安京から外へ広がった町の名残でしょう。その南が清浄華院、平安時代の貞観二年（八六〇）に清和天皇の勅願により禁裏内道場として創建されましたが、その後、転々として天正十八年に現在地に移りました。度々の火災に遭い、今の本堂は明治二十二年の火災後に建てられたものです。

その南が廬山寺です。二月節分の鬼法衆で知られる名刹です。もともと天台・法相・真言律・浄土の四宗兼学の寺で、現在は天台宗の一派である円浄宗の本山です。応仁の乱に焼亡し、天正十三年に現在地に移されました。寺町通に面して「慶光天皇廬山寺陵」という石標があつて、よく聞きなれない天皇だといわれますが、これは天皇の実父に贈られる追尊天皇号なのです。慶光天皇は光格天皇の実父である閑院

宮典仁親王のことで、亡くなった当時、天皇号を贈ろうとしたのに幕府が反対し、明治十七年に至つて実現し、廬山寺陵となったのです。最近になつて廬山寺は紫式部ゆかりの寺として知られています。この地は紫式部の曾祖父にあたる藤原兼輔（堤中納言）の邸宅があつたところで、紫式部はこの邸で育ち結婚生活を送り、夫と死別後是一条天皇中宮の彰子に仕えながら「源氏物語」を執筆したと考証されたことによつて「源氏庭」も作られました。

さらに南へ広小路までは府立医大の学舎が建つていますが、その前は立命館大学のキャンパスでした。広小路通の北側には、その記念碑があります。昭和三十年に鷹峯に移つた遣迎院の旧地です。ここも四宗兼学の寺でした。幕末までその南にあつた中御霊社は上御霊神社の御旅所でした。

この向かい側は染殿町といい、京極小学校から梨木神社まで、寺町通と梨木通の間の細長い土地です。古くは一条道場前町・芝薬師前町・本禅寺前町・浄華院前町といったようですが、寺町通の西側まで公家屋敷で、この町名もなくなっていました。明治に入って公家屋敷撤去後、四周を石垣で囲み公園化しましたが、その際、幸神社に通じ

る柳風呂町を南へ延長し、梨木通としました。明治十二年に築地内にあつた梨木町と合わせて染殿町としました。染殿とは藤原良房の居館址に因んだといひます。



萩の名所・梨木神社



京極小学校のヒマラヤスギ

北端は京極小学校で、校名が京極大路によることはいうまでもありません。寺町通に面して、京都市立学校・幼稚園名木百選に選定された樹木が二件あります。通用門の中にあるクロマツは明治五年、学校が現在地に移転した時、記念して植えられたと伝え、高さ一〇メートル、幹周一〇センチあります。校舎に沿つて十本ほど植えられたヒマラヤスギは昭和十三年、本館と講堂が新築された時の記念樹です。

梨木神社は明治維新の功労者である三条実萬・実美父子を祀っています。明治十八年に三条家の邸址の梨木町に近いところに創建されました。境内は萩の名所として知られ、その萩をこよなく愛された湯川秀樹博士や上田秋成らの歌碑もあります。

## 広小路から丸太町まで

広小路通は河原町から梨木通までの短い道ですが、その突き当たりは清和院御門です。明治以前は今よりずっと西、大宮御所の築地堀の middle にありました。この門から寺町御門までの築地堀の内側は皇太后の大宮御所と上皇の仙洞御所です。その東側の土手にク口

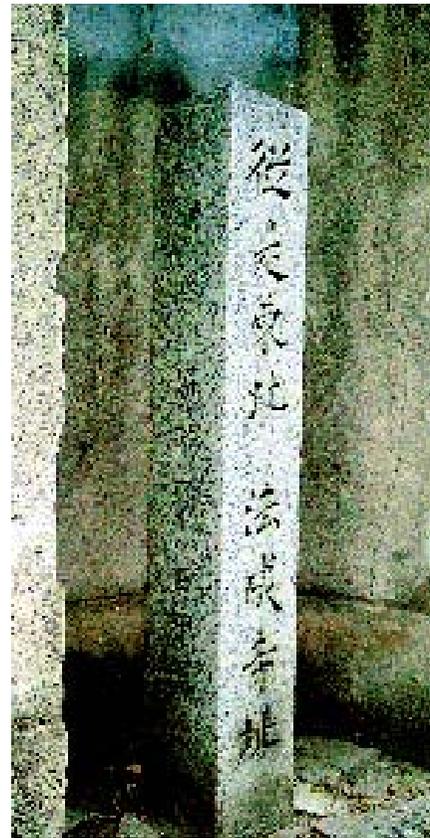
マツの並木が植えられており、今も鴨  
沂高校の前に残り、上京区民誇りの木  
に選定されています。

府立鴨沂高校の前身は府立第一高等  
女学校で、明治五年に土手町丸太町下  
（丸太町橋西詰）に新英学校ととも



府立鴨沂高校正門

に女紅場として設立されました。この  
場所は九条家の別邸の址で、明治三十  
四年に現在地に移転した際にも九条家  
ゆかりの表門を移し、今も正門として  
残されています。昭和八年に新築され  
た現校舎は京都御所に近いところから、  
中央に切妻破風を置いた和風志向の意  
匠でありながら、大きな窓や最上階の  
三連アーチなどは合理主義的建築が取  
り入れられた名建築として親しまれて  
います。



法成寺址石標

荒神口通に面した鴨沂高校の北運動  
場の塀際に「従是東北 法成寺址」の  
石碑が立っています。法成寺は寛仁三  
年（一〇一九）に藤原道長により建立  
されました。無量寿院という阿彌陀堂  
を中心に数々の堂宇が建てられ、その  
壮麗さは摂関期最大の寺院でした。そ  
のために道長は御堂関白と呼ばれます。  
望月の欠けたることはないと全盛を極  
めた道長は糖尿病に苦しみ、万寿四年

（二〇二七）、九体の阿彌陀如来像の手  
から引いた糸に導かれて六十二歳の生  
涯を終えました。東西二町・南北三町  
の寺地も鎌倉時代の末には廃絶してし  
まいました。その地層は鴨川の水害の  
ために深く、鴨沂高校の校舎建設工事  
の時に地下三メートル付近から緑釉瓦  
が発見されていますが、遺構は全く見  
つかっておりません。

この付近を東桜町と宮垣町といいま  
すが、いずれも明治になって名づけら

れました。その南の松陰町も草堂前町・  
西昌寺前町・信行寺前町を明治五年に  
合わせて仙洞御所の松の木の蔭からつ  
けられました。このあたりは両側とも  
公家屋敷でした。ここに住む華族が酔っ  
払って巡査につかまり、名前を聞かれ  
て寺町の 小路と名乗ったところ、そ  
んな所があるかと一喝されたという話  
も伝わっています。

鴨沂高校の南の通りを上切通かみのせりどおしとい  
い、次の下切通との間に京都市歴史資料館  
があります。通り庭や坪庭を意識した  
設計は京都の町家を意識しています。  
この土地は戦前、仏教の篤信家であつ  
た山口玄洞が山口仏教会館を建て、仏  
教の布教の拠点となっていました。戦  
後は文化会館という映画館になってい  
ました。

下切通の南には新島裏の旧邸が残つ  
ています。同志社の創立者である新島  
襄がその住居として建てたコロニアル

スタイルの洋館で、京都市の指定有形  
文化財になっています。明治十一年の  
竣工で洋風の外観ながら内部には伝統  
的な和風の手法が用いられています。  
毎週水曜日には一般公開されます。な  
お、この場所は幕末まで京都の大工頭  
であった中井主水の屋敷があつたこ  
ろで、公儀の土木建築の入札はここで  
行われていました。



新島裏旧邸

丸太町から南は中京区になりますが、  
上京区内の閑静な寺町通は一変して繁  
華街となります。ところどころに寺社  
を残しながら五条まで続くのです。道  
具屋街から新京極の歓楽街、さらに四  
条から南の電機屋街というように百年  
前の寺町通と全く異質な道になってし  
まいました。



# 上京の町家

## 嘉麩

京都市上京区西洞院通樺木町上る

西洞院通の西側によく手入れされた大きな町家がある。一階は虫籠窓、二階は米壁格子で覆われている。ここはどのような家なのかと、いぶかりながら中へ入ると「創業嘉永年御膳嘉司 上之店 嘉麩」の文字が見える。ここが御膳嘉の老舗「嘉麩」の店舗と工場なのだ。

嘉永年間創業だから百五十年、同じ場所ですべての仕事を続けておられる。店先で六代目の御主人、小堀正次さんと奥さんにお話を伺う。正月のこととて店の床には寿の軸、生麩で作ったという餅花が飾られている。半疊の田舎裏、その前に手なれた手焙り火鉢がおかれており、その火鉢に客が来る度であろう、真赤にこけた炭火が二つ入れられる。

水にこだわりつづける小堀さんは、水道水では麩は作れないと井戸水をつんだんに使っておられるという。このあたりは昔から水の良いことで知られる。百メートルほど西に京洛七名水の一つに数えられてきた滋野井があった。樺木町通は上之店といわれ、六条の魚の麩、錦麩とともに魚問屋の同業者街であった。魚屋のあるところ、必ず井戸水が豊富なことから、これも当然のことである。地下六十メートルから汲み上げる地下水は近所の人々にも提供されている。

る。

そこで、この町家についてもお聞きする。元治元年（一八六四）の鉄砲焼けに遭っているから、まさか創業当時のものではないでしょうねと質問したところ、文化・文政期の建物だといわれる。焼失後、今の北白川あたりの民家を移築したらしいとのこと。近年、家が傾いてきたので修理したところ、京の町家と異なる場所が見られたという。床板を剥がしたところ墨書が見え、赤外線写真で「上之店仲間の規則」が浮かび上がったそうだ。



麩を製造する上での使い勝手はと聞くと、当然のことながら使い勝手は悪いという答え、何度も近代的な工場に改築を思ったが、先祖が使ってきた家だから、少なくとも私の一代はこのままでいたいといわれる。どこまでも、こだわり続ける小堀さんの面目躍如を感じさせられた。

# 上京の埋蔵文化財

## 同志社大学会館地点の発掘調査

はじめに

同志社大学では、学生と大学院学生の諸活動をよりいっそう積極的に支援するために現在の大学会館を改築することとなり、二〇〇二年五月から同敷地内に所在する室町殿跡（花御所）の発掘調査をおこなってまいりました。その結果、鎌倉時代から江戸時代にわたり、上京の歴史に新たなページを加えるたくさんの発見がありました。

上立売通りに面した調査区から、幅二m、深さ一・八mの土坑がみつかりました。時期は一緒に出土した陶磁器から十七世紀初頭と考えられます。土坑の断面を観察すると、何枚もの炭の層がみられ、またこの炭の層に挟まれた土の中からは、溶けた銅の付着した多数の埴塙あはじが出土しました。これらのことから、この土坑はある程度長期間にわたり、銅を溶かして小型の製品を製造していた工房の施設の一部であると考えられます。

一方会館南西部の調査区からは、大きな掘り込みがみつかりました。範囲は東西三〇m以上、南北八m以上、深さ一・四mで、その南はさらに調査区の外へ広がっています。埋土は下層と中層が炭を多く含んだ土で、十六世紀末〜十七世紀初頭の陶磁器が大量に出土しました。これらの陶磁器の種類を調べると、唐津や瀬戸・美濃を産地とする高級な陶磁器や金泥かわらけなどが多くみられ、その構成は大坂城下町の大名屋敷や、大商人の屋敷跡からみつかると同様でした。

長さ三〇m以上続いています。もう一本の石敷きは、その最も烏丸通りに近い部分で、上立売通りから南に五m入った場所からみつかりました。大きさは幅一・六〜一・八m、長さ一二mほどです。時期は出土した土器からおおむね十六世紀前半代と考えられます。したがっておよそ十六世紀前半代のある時期、この場所には一列の石敷きがあった、一列は現在のの上立売通りの南に沿い、一列はその烏丸通りに近い部分だけにあつた姿が復原できることになりました。

洛中洛外図を掘る（室町時代）  
上立売通りに面した部分から、東西方向の二本の石敷きが、会館南西部から柱列が発見されました。  
上立売通り沿いの石敷きは、一本が上立売通りの南辺に沿って幅一m以上、

一方会館南西部の元駐車場部分からは、やはり十六世紀前半代と考えられる柱列がみつかりました。この柱列は東西九m以上、南北一〇m以上の規模で、東西と南北を軸としてL形に曲がる配置をしており、柱の間隔や柱穴の底に根石をもつ構造などから、塙の跡ではないかと考えられます。

上町（かみのまち）と呼ばれた時代（鎌倉時代）

上立売通りに面した調査区から、上立売通りの約五m南を東西にはしる一本の溝が発見されました。規模は現存で幅二m、深さ七五cmです。時期は溝の埋め土から出土したかわらけにより、十四世紀前半頃と考えられます。



鑄造土坑



鑄造土坑出土のツルボ



江戸時代はじめ頃の大江



上立売通り沿いの石敷き



上立売烏丸の石敷き



江戸時代初期頃の陶磁器



金泥かわらけ



鎌倉時代の溝(断面)



会館西南地区の柱列

まとめ

以上、同志社大学会館地点でおこなわれた発掘調査の成果の一部を紹介してきました。それではこれらの調査成果が上京の歴史にとつてどのような意味をもつのでしょうか。それを次に考えてみたいと思います。

平安時代、この地は一条以北の京外でしたが、右京が衰退していくなかで左京が発展し、町並みは一条以北と鴨川東にのびていき、中世の京都は、これまでの右京、左京の言い方にかわり、上の町、下の町と呼ばれるようになってきたと言われています。

そして鎌倉時代以降、この地区の周辺にも貴族の邸宅が定着します。記録によれば、西園寺公経が町通り(現在の新町通り)の一条北に邸宅を築き、寛喜三年(一二三三)には北小路室町

の検非違使別当家の小屋が火事になっています。また伏見天皇は永仁六年(二二九八)に退位したあと、新町上立売上の里内裏のひとつ持明院殿を仙洞御所とし、この地域は、中世京都のもうひとつの政治の中心になっていきます。

なお溝の年代である十四世紀前半は、足利義満が室町殿を造営する前で、「後愚昧記」の永和三年(一三七七)二月一八日条によれば、烏丸・上立売・室町・今出川に囲まれたこの地には、南から順に菊邸(今出川公直邸)・仙洞御所・柳原忠光邸が並んでいた可能性があり、今回発見された溝は、その北縁を区切るものであった可能性が考えられます。

一方、上立売通りは、その頃持明院大路または毘沙門堂大路と呼ばれてお

り、大路は最小でも八丈(二四m)あつたはずなので、この溝はその南限を示す可能性もあります。いずれにしても鎌倉時代の京都を復原するための貴重な起点になるものと考えます。

室町時代、この場所は、日本の政治と文化の中心であつた足利將軍室町殿、通称「花御所」の一角にあたつていたと言われます。推定されるその最大範囲は、東が烏丸通り、西が室町通り、南が今出川通りで北が上立売通りです。また天正頃からの記録を載せる「親町要用龜鑑録」の「上古京親町の古地由来記」などにより、この地区に残る「裏築地町」や「築山町」などがそれを伝える地名であるとも言われています。なお室町殿関係の遺跡については、これまで京都市により、現在の大

聖寺の南側の通りと今出川通りの一筋

永年の信用  
まごころのご奉仕

葬祭センター

公益社

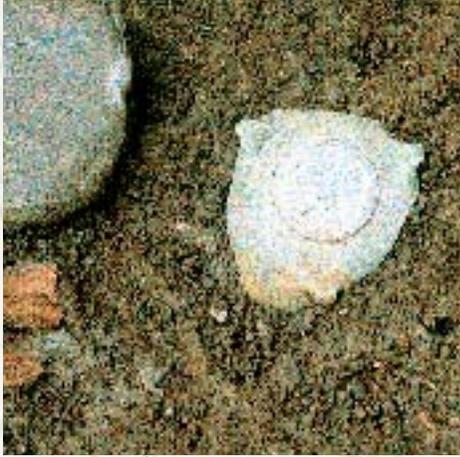
本社 京都市中京区烏丸通三条下る 番 075(221)-4000  
フリーダイヤル ☎0120-00-4200

◆葬儀式場◆

- 公益社北ブライツホール(堀川南町) 京都市北区深町通堀川東入番 075(414)0420
- 公益社中央ブライツホール(五ノ本) 京都市東山区五条通大和大路番 075(951)5555
- 公益社南ブライツホール(堀川八条) 京都市南区堀川通八条下る西御番 075(662)0042
- 公益社宇治ブライツホール(宇治駅前) 宇治市藤島町(文教大学前)番 0774(20)0042
- 公益社東ブライツホール(大津) 大津市朝日が丘1丁目番 075(523)0042

の、二方所の築地塀の配置がみられたことになると思っています。

石敷きの周辺から出土した土器の年代から、この石敷きの年代が足利義晴の再築した室町殿の年代と重なることがわかります。したがって、もしこれらの石敷きが築地塀の基礎であるならば、その配置はそのまま上杉家本洛中洛外図屏風に描かれた室町殿の北東部分に対応する可能性が高いと思われるのです。



石敷出土の青磁盃

次に問題となるのは会館南西地区の塀と考えられる柱列です。ところで、記録によれば、足利義晴が室町殿を建てる際に、奥御殿の一角を板塀で囲うことについての問い合わせがあったとされており、上杉家本洛中洛外図屏風

にも室町殿内に、敷地を区画するし形の板塀が描かれています。したがって今後、詳細な検討は必要ですが、この柱列についても、足利義晴が再築した室町殿の施設の一部であった可能性は高いと考えます。

最後に江戸時代ですが、天明八年および元和六年と思われる火災の跡がみつきり、それぞれの面から建物跡の一部もみつきりました。これらは上立売通に面して立ち並んでいた町屋の跡と思われる。そして問題は、鑄造関係の遺構とそこから同時に出土した陶磁器類です。

鑄造土坑から鑄型が出土していないため、そこで具体的になにを作っていたかはわかりませんが、二〇〇二年におこなわれた新町キャンパスの調査では、鏡を鑄造していた大規模な工房が発見されましたので、そういった職人の町がこちらにも広がっていたことになりそうです。江戸時代最初のころの上京の一角は、金属加工に関わる職人の町だった可能性ががあります。さらにそこから出土した陶磁器をみると、金泥のかわらけをはじめとして、織部黒の向付、志野皿、笹文の志野織部皿、天目茶碗、肥前唐津の灰釉溝縁皿、三島手の唐津碗、中国製染付碗、李朝の白磁、

備前焼の壺などの高価な茶器が大量に含まれていました。したがって上京の金属加工に関わった人々は、同時に高い文化をもった人々であった可能性も高いのです。

記録（耶蘇会士日本通信）によれば、安土・桃山時代の上京には、富裕な人々が多く居住していたとされており、織田信長は、彼らももっていた高級な唐物を強制的に買い上げたり、元龜四年（一五七三）には、信長新邸の周壁の破壊を理由に「上京焼き打ち」をおこなったとされています。

今回見つかった遺物や遺構は、この時のものではありませんが、戦国時代のおわりから江戸時代のはじめにかけて、非常に繁栄を遂げた上京の姿を具体的に示すものと考えます。

これらの調査成果は、いずれも上京の歴史と文化を復原するための貴重な資料です。同志社大学では、教育と研究への活用を通じて、これらの資料をひろく社会に還元していきたいと考えています。

なお、発掘情報を同志社大学歴史資料館オリジナルホームページで公開しています。どうぞご覧下さい。

（同志社大学歴史資料館

専任講師 鋤柄俊夫）

**加藤眼科**

〒603-8116  
京都市北区紫竹上本町七  
(堀川通北山ノ上ル西側)

TEL(075)493-8600

診療時間

月・火・水・金  
午前9:00~12:00  
午後4:00~7:00

木・土  
午前9:00~12:00  
休診 日曜・祝日



**松宮砂糖商事株式会社**

砂糖・甘味料・食品原材料元卸  
ギフト用砂糖セット製造販売元

〒602-8471 京都市上京区五辻通浄福寺西入

TEL (075) 431-3351(代)  
FAX (075) 431-3355



上京区民  
薪能

第三十八回上京区民薪能は、このところ雨にたたられることの多かった中に、秋晴れの九月二十日、白峯神宮の特設舞台で行われました。上京区民による第一部の舞囃子と仕舞などが新調した敷舞台の上で披露されました。第二部は火入式につづいて、いちひめ音楽会の舞楽「陪臚破陣楽」、麻ノ会の箏曲のあと、観世流の河村和重師の舞囃子「融」や、金剛流の仕舞等があり、大感流狂言「二十九十八」が演じられ、最後に観世流の浅井宏丞師らによる能「芦刈」があつて五時間にわたる幽玄の催しを終わりました。



例年、区民の皆様が親しまれていきます「上京区民ふれあいまつり」が十月二十六日に、新町小学校で開催されました。不安定な天候にもかかわらず、多くの子供達で賑わいました。また、講堂内では上京中学校のブラズバンドやハワイアンの演奏が披露され、集まった約七千人の上京区民は、上京区内の諸団体による趣向を凝らした出店に、楽しい秋のひとときを過ごしました。

ふれあいまつり

恒例の

上京区文化振興会と

上京区役所が共催する

秋の上京茶会は、

十一月十日に

本隆寺の本坊を

会場として

# 秋の上京 茶会

裏千家の懸釜によって  
開かれました。

境内の紅葉を

眺めながら四百人余りの

上京区民らが

一腕の抹茶を喫しながら、

忙し境地に浸りました。



## 上京区民ふれあい ウォーキング



今回の上京区民ふれあいウォーキング(昨年までは、ふれあい史蹟ウォーキング)は、区民の健康を目的として十一月二十四日に開催しました。

コースは、出町から北大路橋、北山大橋、上賀茂神社を通ってゴールの植物園までの約五キロメートルでした。肌寒い気候にもかかわらず、賀茂川沿いの身近な自然に百五十名の参加者も元気に楽しんでいました。



薬 匠

**本家 玉壽軒**

〒602-8335 京都市上京区今出川大倉東入  
TEL (075) 441-0319・414-0319

**花工房**

いろいろなシーンに  
心のこもったお花の贈りもの  
花束・アレンジメント

—お電話でのご予約承ります—

京都本店  
京都市上京区丸太町中1丁目  
TEL:075-414-9709 FAX:075-434-3787  
URL: <http://www.hanakobaba.co.jp>  
E-mail: [han.ten@hanakobaba.co.jp](mailto:han.ten@hanakobaba.co.jp)  
梅田店・大塚店

2F-カフェ

## 人権月間のつどい



# ユキエ



12月の人権月間に伴い、12月12日、上京区民ふれあい事業実行委員会、上京区役所主催の人権月間のつどいとして、映画「ユキエ」が上映されました。

この映画は、アルツハイマー病におそわれた妻との夫婦の絆、生きることの美しさを伝えた作品です。会場の西陣舞会館3階ホールに訪れた約400名の区民の方々に深い感動を与えました。

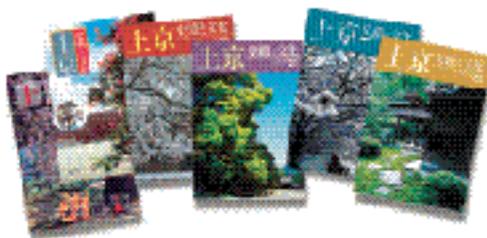
# 文化大学

今年の文化大学は作曲家の薨田熊之扶先生をお招きして、十二月二日に京葉子資料館で開催されました。はじめに資料館二階にお茶とお菓子をいただき、その後三階へ上って「音楽の感性を育てる」と題して薨田先生に講義していただきました。約二時間わたる楽しい講義に、四十七名の参加者は熱心に聞き入っていました。



## 上京区民の文化的情操を高めるのが 上京区文化振興会の 使命です。

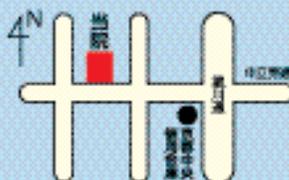
発足以来40年余、上京区民の文化人によって組織され、文化振興に尽くしてきました。



耳鼻咽喉科

## 鈴木医院

京都市上京区中立売通堀川西入  
441-0675



診療時間

月・火・水・金

午前 8:00～12:00

午後 4:30～ 7:30

土

午前 8:00～11:30まで

休診 木・日・祝

## 編集後記

「上京の埋蔵文化財」には、同志社大学会館の発掘を担当された鋤柄先生に最新の発掘成果を紹介していただきました。洛中洛外屏風に描かれた板塀と思われる柱列が発見されるなど、上京の歴史に新しいページが加えられました。私たちの住んでいる真下に知られざる歴史が埋もれていることを認識したいものです。最近、上京区内でも町家を生かした新しい試みが見られるようになりました。こわさずに生かすという気構えがあれば、上京らしい町並が残せるのではないのでしょうか。

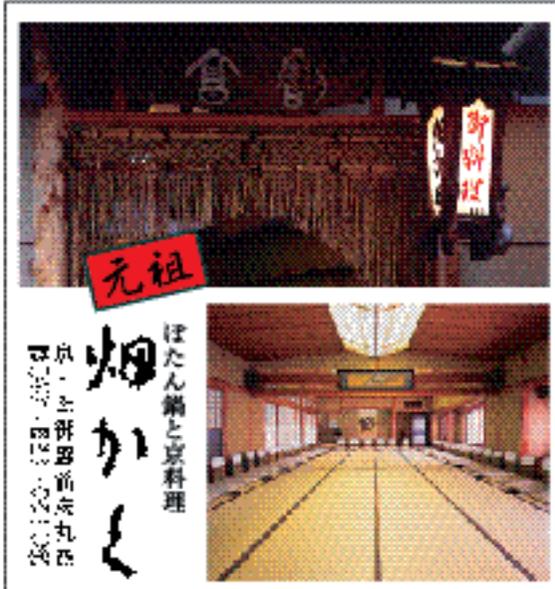
(い)

水鏡料理  
祇園  
田



〒605-0068 京都市東山区山田町4番地4号  
TEL.075-525-1515

元祖  
ぼたん鍋と京料理  
畑かえ  
京・と餅屋前丸太  
京・と餅屋前丸太



各種懇親会に御利用下さい  
宴会・婚礼・会議・宿泊・レストラン

くつろぎ  
¥3,500(税別)

**ホテルルビノ京都堀川**

〒602-8056 京都市上京区東堀川通下長者町  
TEL.075-432-6161代 FAX 075-432-6160 <http://www.rubino.gr.jp/>




創立以来七〇年にわたって、和やかな家庭的な雰囲気にもまれつつ就学前教育の本流をめざして、保育を続けて参りました。幼児たちは楽しい遊びを通して、人生に必要な生きる力のすべてを手に入れます。

**学校法人 北野幼稚園**  
京都市上京区御前通一条下る  
(北野天満宮/バス停下車南100m)  
TEL.463-0111(代)  
[http://homepage3.nifty.com/kyotokitano\\_k/](http://homepage3.nifty.com/kyotokitano_k/)

京料理  
雲龍



京料理  
雲龍

和光印刷株式会社  
京都市上京区御前通一条下る

**依屋吉富**

本店 京物・室町上三巻  
電話 (432) 2211代  
高丸店 京物・高丸上三巻  
電話 (432) 3141代